



Upside Japan
THE TECH INSIDER www.upsidejapan.com

！ホーム！UPSIDEについて！UpsideToday米国版！

！コラム！ビジネスモデル！注目の企業！キーパーソン！業界動向！アジア最新ニュース！ITな暮らし！



注目記事

- ・MSNが音楽配信サービスに参入
- ・ネットのコンテンツで金は取れるのか？
- ・マイクロソフトがトランスメタと提携!
- ・iモードがアメリカにやってくる!

- ・ハイテク株よ、底の底まで落ちてくれ
- ・略語の山に埋もれたB2Bマーケット



デジタル用語辞典:

検索



Upside Japan / コラム

Re率となんじゃこりや度 中村伊知哉@LANTIC【第21回】

2000年9月25日

“Re:”の割合で、その人の律儀度がわかる



メキシコのプラヤ・デル・カルメンからコスメル島に向かう小舟にいる。カリブ海は青のグラデーション、ゆるぎない青、爆発的な陽の光、商店のカベは南部スペイン風オレンジ、原色とりどりの民芸品、圧倒的なアナログ感。デジタルで再現できる余地はない、ような気がする。

同じように暑い沖縄で開かれたサミットは、テレビでみる限り、日本の総理が世界にITを唱えているようで好ましい。だが採択されたIT憲章は、案の定デジタルデバイド(DD)を国際問題と化した。アメリカの国内問題だったDDは、あっという間に国際格差が課題とされるようになった。どこかの国の思うツボだ。思うツボって何だろう、ツボが何かステキなことを想っているのかしら、だとすればメディアラボ的でいい、ような気がする。

船着き場にはインターネットカフェの看板があった。立ち寄ればメールに返事ができる。十分なデジタルだ。サミット諸国はこんなアナログな場所をもっともっとデジタル経済に染めあげようというのか。不用意にデジタルを強制すると、せっかくのアナログなクリエイティビティが失せる、ような気がする。

思いついた。クリエイティビティ度を測る手法。メールは返事が中心か、新しいスレッドを立ち上げて話題をクリエイトするか、その比率を計算してみる。自分のメーラーの中にある全ての送信メールに占める「Re:」の割合、これを「Re率」とし、これが低いほどクリエイティブ、とみる仮説。どうだろう。全受信メールと、Reで送信したメールとの比率をとって「律儀度」を測る、ってのもあるかな。研究の価値がある、ような気がする。

バーチャルが生活空間に息づく国、日本

船着き場周辺、ざらついた雑踏にたちのぼる潮の湿気、重油の臭い、ブレーキもない自転車、屋根も満足にない民家、英雄チャベスの看板、地面のトカゲ、空を舞うワシ、コロナビール1本10円、だが小型テレビは5万円、トマトやイモと並んでサポテンが売られている、むかし自分もこういう場所にいた、ような気がする。

先週は東京にいた。ジョイポリスにMITメディアラボのコーナーを開設するためだ。8チームから8作品を持ち込み、常設展示してもらっている。ウェアラブル楽器とかホログラフィーとかPCアートとかネットおもちゃとか。なんじゃこりや、と思ってもらえる、ような気がする。

メディアラボはビットとアトムを結合をテーマにしている。現実空間をビットに置き換える作業はインターネットで達成されつつある。いま力を入れているのは、その逆の動き。バーチャル空間をリアルワールドに持ち込み、デジタルを身の回りに埋め込んでいくことだ。あわせて、20世紀的な効率主義だけでなく、おもしろさや美しさをデジタルに求めることだ。Tokyoに持ち込んだのは、その具体である。ごめん、言葉ではわからない、写真でもわからない、行って触っていただくしかない、ような気がする。

ジョン前田教授んとこの学生と一緒に東京入りした。クリエイティブティと美意識が服きて歩いているようなヤツだ。初来日で、なんじゃこりや、の連続だった。彼の目に止まったニッポン「なんじゃこりや」物件と、私の解説:

ラブホテル: 家の狭さと愛の濃さがつくりあげた城のかずかず

回転ずしの店先にあるロウ細工: 味覚と視覚の融合は日本古来のテーマだ

そこらじゅうにある自販機で売ってる缶ジュースのキュートなデザイン:このボックスをネット化したいんだが

パチンコの換金システム:日本はオモテとウラを了解して日常を演ずるバーチャルな劇場だ

これからのネットは“なんじゃこりゃ”でいこう

狭い船内はエンジン音が高い。かみ殺した表情の行商の父子。汗。無口な男たち。太陽。かいがいしく働く子供たち。遠くをみつめる目。陽気なラテン音楽は、彼らの憂いを隠すためにある。本来ここには、もっと湿った曲が似合う。橋幸夫のメキシカンロックより、もっと。たとえばPuffyのMotherのような。

しかしあれをムチ子に使うおはスタも強烈だな、と思っていたら、下船の案内に、上を向いて歩こうが流れ始めた。スキヤキソングだな。うむ、ここにも、わかっている人がいる、ような気がする。

東京ではもう一件、日経の夢テックというイベントを見学した。こういう集まりにはおなじみの企業にまじって、ATRやら郵政省通信総合研究所やら通信・放送機構やら、ふだんお目にかかれないメディア研究機関のなんじゃこりゃ多数。同時に、セガがゲーセンを光ファイバーでつないでアプリケーションを試していくという、野心的な試みもこのブースでスタート。

まずは映像アーカイブが柱になっている。コンテンツをデジタルに貯めていくことと、それをネットでつなぐこと、これが「通信と放送の融合」の本質! セガにとってそんなことはどうでもいい、ような気がする。これは国策としてやったほうがいい、ような気がする。

B2C、B2B、IPO、ERP、大切なことだと思う。でも、ネットを情報を流すパイプとしてとらえて、商売のために速さや便利さを追求するのは、そろそろイマジネーションのタネが尽きてきた。それより、表現の広場として、おもしろさを追求する方が広がりがあがる。なんじゃこりゃ度を高めるのがデジタルの本丸である、ような気がする。

中村伊知哉 プロフィール



マサチューセッツ工科大学 客員教授
'61年生、京都市出身。京都大学経済学部卒。

在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターで活躍。
'84年、郵政省入省。'93年からバりに駐在し、'95年に帰国後は郵政大臣官房総務課課長補佐を務める。'98年、郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就任。同年、マサチューセッツ工科大学 客員教授に就任。

著書に『インターネット、自由を我等に』（アスキー出版局）などがある。
趣味は、ずばり“メディア”。

ホームページ: <http://www.media.mit.edu/~ichiya/jpn.htm>

- ▶ [ある一ヵ月間のドタバタ日記\(12月28日\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...) (<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)
- ▶ [かぞえ直しが続くあいだに\(11月28日\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...) (<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)
- ▶ [オレの声が聞こえたか高橋\(10月25日\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...) (<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)
- ▶ [カッコワリーってモンダガ\(10月4日\)](http://www.upsidejapan.com/upside/column...) (<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)

- ▶ [中村伊知哉@LANTIC【連載リスト】](http://www.upsidejapan.com/upside/column...) (<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)

(中村伊知哉)

！ASCII24！ASCII24 Business Center！日刊アスキー Linux！アスキーデジタル用語辞典！
！auto-ASCII24！Shes.net！ASCII Job Serve.！アスキートップ！

！[個人情報の取扱について](#)！[編集部へのコンタクト\(info@upsidejapan.com\)](#)！[広告掲載のご案内](#)！

Copyright (C)1993-2000 Upside Media Inc.
Copyright (C)2000 ASCII Corporation.
All rights reserved.